

令和7年度第3回学校運営協議会 提言・意見交換

3/16(水) 14:00~15:30

於 プレゼンテーションルーム

<今後の予定・検討課題>

上沼校長

寮について県教育委員会に問い合わせたが、再開の目途は立てられず現実問題として厳しい状況にある。地域みらい留学の実践校では、約2割の高校が寮以外での住まいの提供方法を採用している。

3年間の観光科実習プランの検討をお願いしたい。1年次では講義を中心としたインプット期間、2年次では実習を絡めての移行期間、3年次で「高校生トラベル」の実践によるアウトプットを計画している。

愛知県観光コンベンション局顧問：武田顧問

新しい視点として、誰（障がい者や高齢者）でも楽しめるユニバーサルツーリズムが広められるとよい。生徒には弱者に寄り添った観光を学んでいって欲しい。

足助交流館長：宇和佐顧問

交流館でも足助の町並みを探索する企画を実施している。コミュニティ会議で相談しながら進めているが、今後は若者の意見も取り入れていきたい。

足助支所長：花木委員

観光ビジネスコースと観光科の違いを明確化し、魅力を発信していくことが重要である。令和8年度から足助地区で実施されるの世界ラリー選手権(WRC)では、多くのインバウンド観光客に対して高校生と協力しながらおもてなしの心で対応していきたい。

足助商工会長：村上委員

おもてなしの心が最も大切である。個人的には観光に携わって欲しいが、地元でこだわる必要はない。

足助まちづくり協議会代表：三宅委員

観光科に偏ることなく、普通科にもバランスよく力を注いでいくべきである。

三州足助公社社長：岡村委員

観光の仕事にも幅がある。生徒にやりたいことを聞いて目標を尋ねてみたい。香嵐渓の観光課題を生徒とともに考えていきたい。

みよし市教育委員会：山内氏

学んだことを地域にどのように密着させていくかが課題である。

おいでん・さんそん代表理事：戸田委員

3年間で何が学べる学科なのか、もう少し明確にしていく必要があるのでは。校外での市主催のまちづくり提案事業などに、生徒への参加を促してみてもよいのでは。寮については、豊田市の支援がもう少しあってもよい。

足助高校PTA会長：鈴木委員

地域のサポートがあって、様々な学習活動ができています。ありがたい。

三河の山里コミュニティパワー取締役：関原委員

生徒2名がシェアハウスに入居することになった。将来的に入居者が増えた時の宿泊施設の充実が課題である。大学生との交流や民間会社との連携で、おもてなしの心が身につけられるとよい。

豊田市立旭中学校長：近藤委員

中学生も探究活動している。若い世代への問いかけをしていくことが大事である。旭だけでなく、足助や稲武の山間地域での連携をしながら観光に関わる学びを深めていけるとよい。

豊田市立稲武中学校長：山田委員

探究活動によって深い学びができる。またその活動に没頭することで生きる力が養われる。さらに、地域の歴史を学ぶことも重要である。

豊田市立足助中学校長：山田委員

中学校と高校との連携を深め、中学生が高校生と交流をすることで、中学生が足助高校への良さを感じとってくれる機会が増やせるとよい。

足助高校同窓会長：鈴木会長

AI中心になりつつある世の中で、人間しかできない探究活動を重視する学習を深めていてもらいたい。

足助観光協会会長：田口副会長

寮の再開があれば、もう少し入学者は増えるはず。県からの支援が欲しい。